

令和5年度相談支援従事者指導者養成研修

ヤングケアラーの支援とアセスメントについて

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
「ヤングケアラーの支援に係るアセスメントシートの
在り方に関する調査研究」報告書より

特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会
吉田 展章

ヤングケアラーの支援と相談支援

○社会や地域からの孤立

- ・重層的（包括的）相談支援体制、地域での支援体制

○早期発見・早期介入

- ・二次障がい、適切な支援、チームアプローチ、多職種連携（つなぎ）

○潜在化しやすい環境

- ・おかれている環境や状況、価値や文化、多様性

○アセスメント、とは

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

ヤングケアラーの支援に係るアセスメントシートの在り方に関する調査研究

(実施：有限責任監査法人トーマツ)

【 事業概要 】

- 支援が必要なヤングケアラーの**早期発見・介入に繋げるためのアセスメントシートの在り方を検討**することで、ヤングケアラーへの支援の充実を図ることを目的に実施
- 成果物として、**アセスメントツール**及びその活用を促進するための**ガイドブック**を作成

ヤングケアラーの支援に係る アセスメントシートの在り方 に関する調査研究

<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/life-sciences-and-healthcare/articles/hc/yc-assessment.html>

実施概要と経過（報告書より抜粋）

第3章 先行調査・先行研究の整理（文献調査）

第4章 アセスメント等ツールに関するヒアリング調査

第5章 デルファイ調査（アンケート調査）

第6章 成果物の取りまとめ（報告書参照）

第7章 総合考察

第3章 先行調査・先行研究の整理（文献調査）

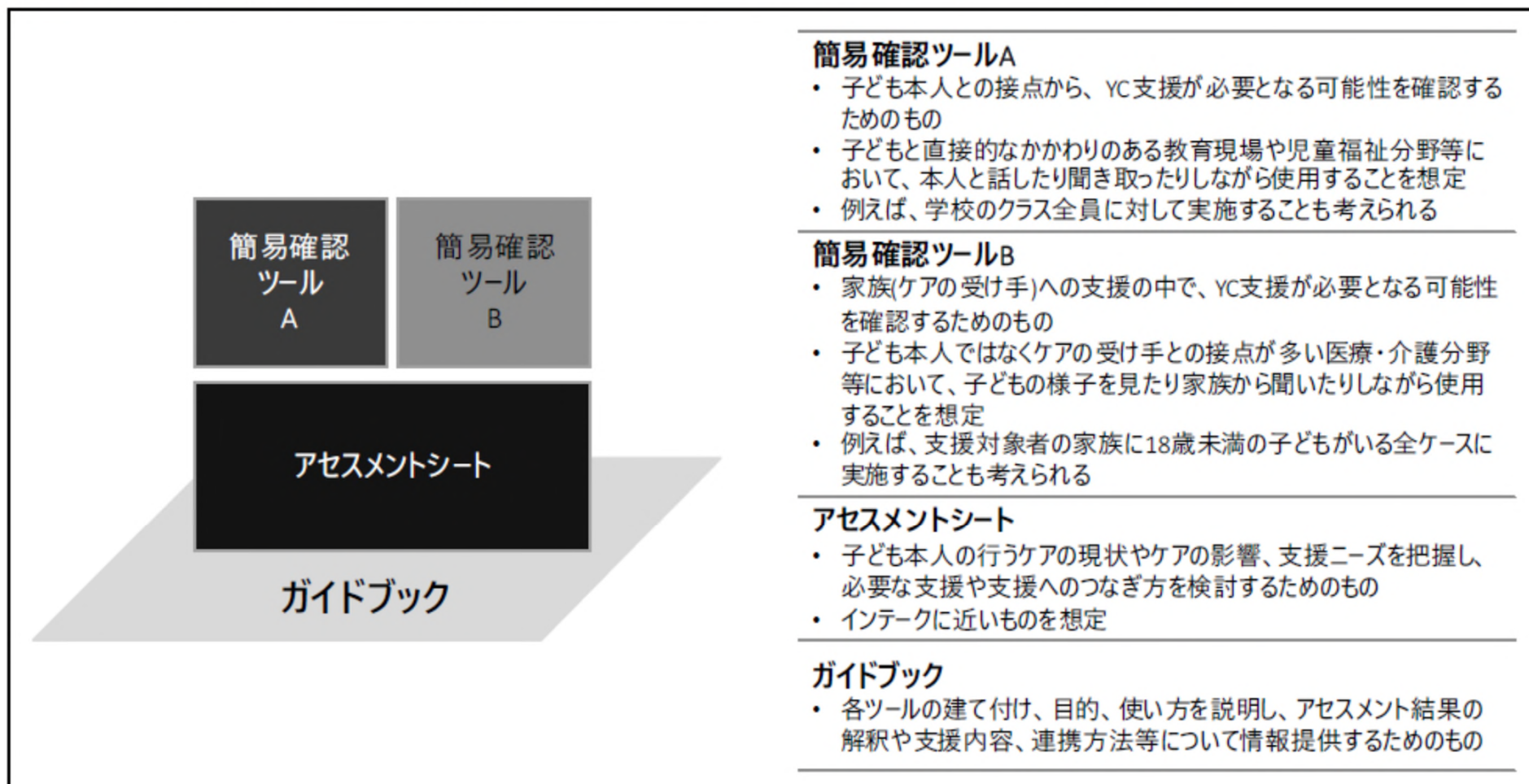
【アセスメントツールに対する議論】

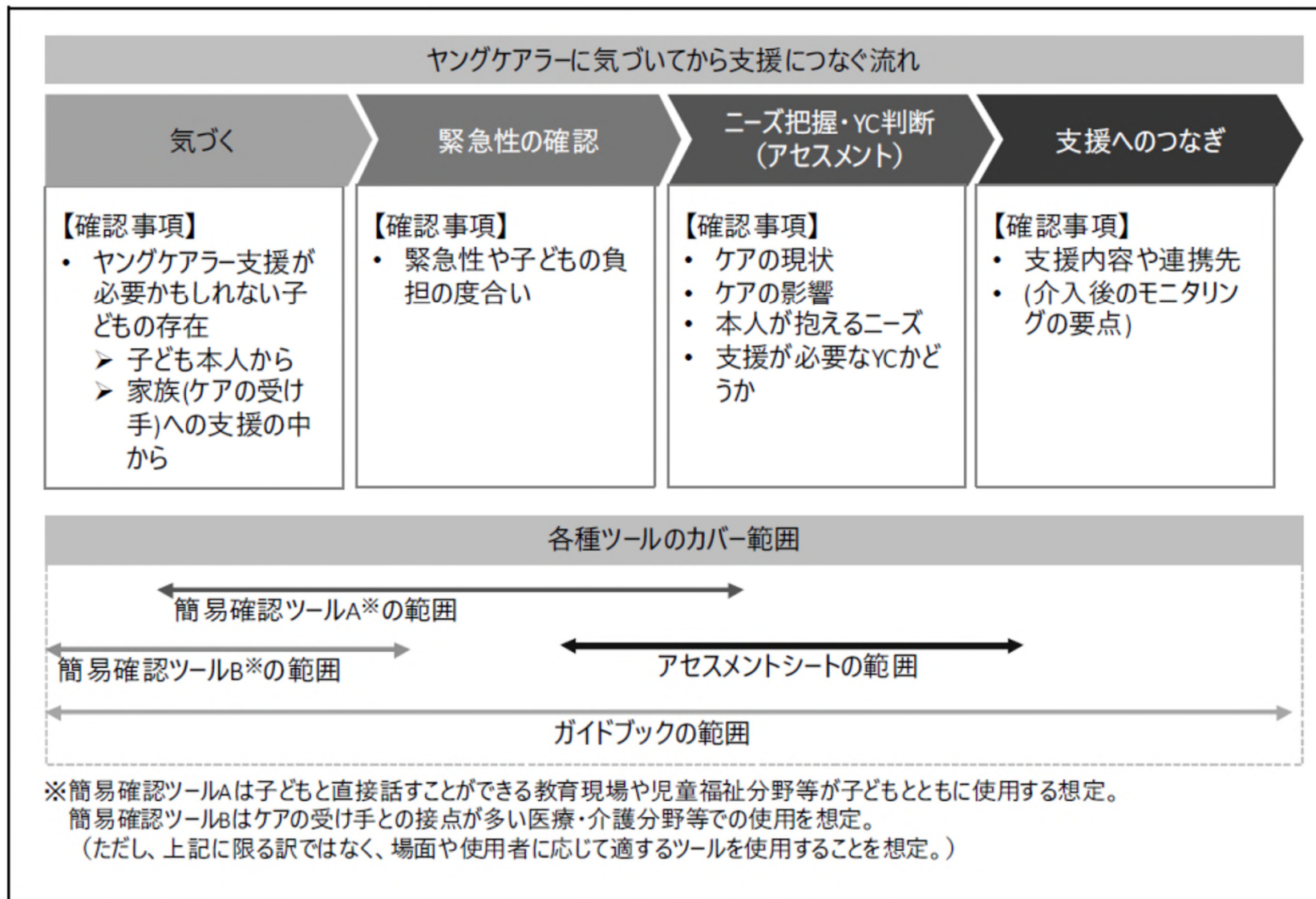
○早期発見・早期介入に向けて

- ・対象は？ ⇒ 子ども（年代や育ちによる差異）
⇒ 関係機関（専門性による差異）
- ・多様化するニーズへの対応
- ・評価指標と支援へのつながり（分析と評価）
- ・スクリーニングと気づき
- ・価値と分化

本研究では「**簡易確認ツールA**」「**簡易確認ツールB**」「**アセスメントシート**」
それらの活用を促進するガイダンスとして「**ガイドブック**」を作成

図表 8 本事業において作成するアセスメントシート等ツール類の説明





第4章 アセスメントシート等ツールに関するヒアリング調査

【ヒアリング】

○対象分野

- ・ 児童福祉、高齢者福祉、障害福祉、教育、医療、生活困窮、ヤングケアラー相談、当事者団体

○地域による差異

- ・ アセスメントの捉え方の違い
ヤングケアラーか否か？支援の一部としてのアセスメント？
- ・ アセスメントをすることでの恐怖や不安

本研究では、成果物に求められる主な役割を

「ヤングケアラーに気づいて必要な支援に繋げる」

「子どもの気持ちに寄り添い話を聞くことができる構えを作る」とし、
成果物については、**評点をつけるのではなく視点を提示するもの、と整理**

第5章 デルファイ調査調査

【デルファイ調査】

- 各分野の専門家にアンケートによって意見を求め、これを集計した結果を再びアンケートとして回答者に送り、その意見を集計する（数回にわたってアンケートの反復を行うことで、専門家の意見の集約、分散を調べて、これを予測の材料とする） 対象はアンケートと同様

本研究の成果物は「**子供の話を、子どもを主役として聞いてくれる大人がいる環境を作る**」、ことを目的とし、ヤングケアラーの気づきを促す「**ヤングケアラー気づきツール**」と、ヤングケアラーに気づいた後に、子どもとの信頼関係を構築するための会話の視点を示す「**ヤングケアラーアセスメントツール**」の2階建て構造とする

第7章 総合考察

【アセスメントの在り方に関する要点】

- 前提として、ヤングケアラーと思われる子どもと接する場合は、ヤングケアラーに関する基本事項の理解が重要である。
- 子どもに話を聞く際に、「話を聞く目的」、「話をするとこの先どうなるのか」、「子どもから聞いた話を、子どもの同意なく第三者に話さないこと」を伝え、同意を得たうえで話を聞く
(信頼していた大人に話したつもりが、本人の同意なく第三者に共有されてしまうことで心を閉ざしてしまう子どももいることを理解する。)

第7章 総合考察

- ヤングケアラーの気持ちに寄り添う
 - ヤングケアラーであるこども・家族の尊厳を大事にし、これまでの取り組みに対して敬意を払う（こどもやその家族の価値観を受け止める）
 - ヤングケアラーであるこどものことも、ケアの対象となる家族の事も、ともに大事な存在だと考え、心配している、という姿勢を持つ
 - 支援につなげることを焦らない（緊急の場合を除く）
（会って話をする回数をできるだけ多くし、日常的な会話の延長で少しずつ尋ねていくことが望ましい）
 - こどもと同じ目線での「対話」の姿勢を持つ（決めつけや、予断を持って相手を見ない）
 - 信頼関係が深まっていく中で、ようやく明らかになることがあることを意識しておくこと
（最初は本音を語らない、語れない場合がある）
- こどもに話を聞く際は、一つ一つの項目を尋問のように形式的に聞き取らない
- 各種ツールにあるすべての項目を必ず聞き取る必要はないことを理解する
（他機関で既に情報を持っている可能性もあるので、無理に聞く必要はない点に留意する）

地域での活用

- アセスメントツールなどの成果物の活用について意見交換
 - ・地域での研修
 - ・重層的（包括的）相談支援体制の構築へ向けたきっかけとして
 - ・アセスメントの在り方についての意見交換や多職種連携
 - ・地域での子どもの存在とおかれている状況
 - ・ヤングケアラーへの支援と障がい福祉の支援の共有することと似て異なるもの